

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）【概要】（案）

日時：平成30年10月10日（水）午前10時から正午まで
場所：千葉市文化センター 会議室Ⅱ・Ⅲ

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、廣澤 正晃、藤田 和弘、廣部 泰紀、渡部 徹、本山 哲也、関根 寿典、小川 泰求、佐久間 勝彦、田中 庸恵（委員長）、齋藤 明（副委員長）、磯野 和美、花島 和宏、大田 紀子

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）報告

①平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について

②平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項について

③平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

④平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について

⑤その他

（5）協議

①平成33年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等の在り方について

②平成32年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③その他

（6）閉会のことば

3 協議内容（→：事務局）

（1）平成33年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

→ 県立高等学校入学者選抜の改善方針について、専門部会で作成した本検査及び追検査の選抜実施方法等の試案を主査より説明する。

・本検査について

第1日は、国語、数学、英語の3教科の学力検査を実施する。国語の問題には、放送による聞き取り検査、英語の問題には、放送によるリスニングテストが含まれる。第2日は、理科と社会、2教科の学力検査と各高等学校が定める検査を実施する。学力検査の検査時間は、国語、数学、理科、社会は各50分、英語は60分とした。近年、リスニングの放送時間が増えており、解答に充てる時間が短くなってきているので、今回の改善において一日の検査日程にゆとりが生まれることを踏まえ、検査時間を拡大したほうがよいのではないかという意見が挙げられたためである。学力検査ごとの配点は、現行と同じ、各教科100点である。検査時間割は、第1日、第2日両日とも、9時30分を集合時刻とし、午前中2教科、午後は、第1日が英語1教科、第2日は各高等学校が定める検査をそれぞれ実施する。集合時刻を遅らせ、午前中2教科にしたことについて、中学生や高校側の準備で余裕を持たせたほうがよいのではないか、天候など不測の事態で検査日程を動かすことを考慮した上での時間割がよいのではないかという意見が挙げられた。第2日午後の各高等学校が定める検査の実施は、日暮れが早い冬季で、中学生を遅く下校させるのは心配であることから、検査を終了する時刻の目安として16時30分を明記した。

・追検査について

追検査の実施場所は、志願した高等学校とした。受検資格は、インフルエンザ罹患による急な発熱で別室での受検も困難である等、やむを得ない理由により本検査を全て受検できなかった者のうち、所定の手続により、志願する高等学校の校長に承認を受けた者とした。これまでも1教科でも受検したらそれをもとに判定してきたことや、すでに追検査を実施している他県の状況等を踏まえ、本検査を全て受検できなかった者を対象とした。手続は、追検査受検願と、医師の診断書など本検査を受検できなかった理由を証明する書類を、在籍又は出身中学校の校長を経由して、志願する高等学校の校長に提出するとした。追検査の検査内容は、本検査に準じる。ただし、1日で実施するので、各高等学校が定める検査の実施は学校ごとの裁量とした。検査時間割は、現行と同じ集合時刻で、終了時刻の目安は本検査第2日と同じ16時30分とした。

- ・本検査の選抜方法について、専門部会においては、現行の選抜方法や他県で実施されている選抜方法など、様々な角度から調査・研究を進め、検討をしている。選抜方法についての意見をお聞きしたいので、現行の選抜制度についての説明と、専門部会でどのような意見があったかを報告する。
- ・前期選抜について
 現行制度の前期選抜は、学力に加え、生徒の多様な能力・適性、意欲、努力の結果、活動経験等の優れた面を多角的に評価できる選抜である。検査内容は、1日目には5教科の学力検査を実施し、2日目には各学校で、面接、作文や自己表現などのうちから一つ以上の検査を実施している。これらの結果を総合的に判定することにより、その学校の「特色に応じた」選抜を可能としている。選抜方法は、学力検査の結果、調査書中の評定値、特別活動の記録などの記載事項、2日目に実施する面接などの結果を選抜資料として、総合的に判定している。各高等学校では、それぞれの特色に応じて「期待する生徒像」を定め、選抜・評価方法を各学校のホームページで公表している。選抜・評価方法について具体的に説明する。「評価項目及び評価基準」には、選抜に用いる資料の具体的な評価項目と評価基準を示しており、昨年度より、原則として、選抜資料は全て得点(数値)化することとし、各学校は、学校の特色に応じて、各選抜資料の満点を設定する。「選抜方法」の表には、「学力検査の成績」、「調査書の得点」「第2日の検査の得点」を全て合計した「総得点」で選抜する際の例が三つ示されている。学校ごとに、それぞれの選抜資料の満点とそれらを合計した総得点は何か表で示す。前期選抜率は、各校それぞれの特色や地域の実態に応じて、普通科は30%から60%、専門学科は50%から100%までの範囲で定めることとしている。
- ・後期選抜について
 後期選抜は、県作成の学力検査と調査書に加え、各校が必要に応じて実施する、面接や適性検査などの検査を資料とし、選抜を行っている。原則として全県で統一された選抜方法だが、学力検査の結果の利用方法や、調査書と学力検査の比重の置き方は、各高等学校、学科などの特色に応じた工夫が行われている。選抜の手順は、調査書の評定について、各受検生の中学校の評定平均値が95になるよう補正した値で順位をつけたとき、上位80%以内(受検者数が募集人以内のときは、受検者数の80%、募集人員を超えるときは募集人員の80%)にあり、かつ、学力検査の5教科の得点合計によって順位をつけたとき、上位80%以内にある者で、調査書の評定や学力検査の成績などの選抜資料に問題となる点がない者をA組とし、入学許可候補者となる。A組に属さない者をB組とし、学力検査の点数と調査書の評定の合計値、その他の選抜資料を総合的に判定して選抜する。学校によっては、数学や英語の得点を1.5倍又は2倍に、また、調査書の評定を2倍、3倍にしている学校もある。
- ・専門部会の協議の中で、選抜方法について挙げられた意見を報告する。
 現行の前期選抜の選抜方法を前期型、後期選抜の選抜方法を後期型という言葉を便宜的に使用して説明する。一つ目として、現行制度での選抜を出発点に、前期型と後期型の両方を交えて選抜してはどうかという意見が出た。1回の選抜だから、どちらの型で先に選抜するのか、前期型と後期型の割合をどうするのか、様々な意見があった。例えば、まず、後期型の学力検査と調査書をもとに80%程度決めて、残りを前期型で決めるという形がいいのではないか、という意見があった。ただし、この意見は、後期型が前面に出ると、今度の選抜は学力と調査書が重視されるイメージではないか、後期型を多くすれば多くするほど学校の特色が出せなくなっていくのではないかと、今まで推薦や特色選抜で先に選抜しているので前期型を先にしてもよいのではないかと、そして、全員に面接などを課すのであれば全て前期型で1本化してもよいのではないかと、などの意見もあった。二つ目として、前期型、後期型もしくは併用型を各学校が選べるようにしたらどうかという意見が出た。例えば、学校の特色があるので、それに合わせてある程度、自由度があったほうがよいのではないかと、学校の特色が出せるような入試をやっていかないと、中学生は学校を選べないし、特色がつかみづらくなるのではないかと、高校としても特色が出せるのではないかと、などの意見があった。この他、中学校ごとの評定の差の補正の仕方などについても様々な意見が出ている。次回の入試改善協議会で、最終的な報告書をまとめ、御報告したいと思うが、その前に、本日、委員の皆様から御意見を伺いたいと考えている。
- ・本検査及び追検査の検査内容等について意見を伺いたい。
- ・学力検査で英語はリスニングテストがあるから60分に延ばしたが、国語も聞き取り検査があるが、時間的なものの配慮はしなくて良いのか。追検査については、本検査の何日後にやるのか。
- ・国語は、現行のやり方の中で充分集約されていることもあり、特に50分で行うことについて異論はなかった。英語は最近の様々な情勢もあり、時間を延ばした方がよいということになった。追検査の時期は、まだ具体的には決まっていない。
- ・第2日の検査の終了時間が16:30と明記しているが、現行では明記していなくても終了していたのか。

- 調査をかけているわけではないので把握はしていないが、ほとんどの学校で半日の日程で終了していると聞いている。
 - ・リスニングテストの聴覚障害者に対する配慮はどのようになっているのか。
- 特別配慮申請があり、中学校長と高等学校長で連絡を取り合い、状況に応じた配慮を行っている。
 - ・追検査の受験資格が、本検査をすべて受検できなかったものとしているが、ある特定の教科を受験しなかったものは対象としないのか。
- 現状は、1教科でも受検していれば選抜の資料として掲載し、選抜を行っている。
 - ・専門部会で多面から検討したことであるので、意見は特にはない。
 - ・多面的にこれまでの声を含めて反映してもらい丁寧な試案であると感じた。
 - ・4年前、福岡県から千葉県を受検した場合ランクを下げないと合格できないと言われたと言っていた。内申点の基準が違うので他県は不利になると言っていた。現状はどうか。
- 他県からの受検に際して、5段階評価であれば、調査書の点数はそのままの数値を使っている。中学校からの評価は絶対評価となっているはずである。
 - ・過去にもそういったことは無く、今でもそのまま評価をしているという解釈でよろしいか。
- 同じような方法でやっている。
 - ・基本的には、試案に賛成である。リスニングの時間が増えるので施設の対応をしっかりと行わないといけない。集合時間を遅らせているので、理由を明確にしたほうが良いと思う。
 - ・追検査の対象がインフルエンザ等となっているが、この等に含まれることは何か。
 - ・議論はあった。挙げるときりがないので、ここではインフルエンザとしているが、後々考えていく。
 - ・子どもたちの様子をよく見ていただいて、ゆとりある時間で、安全面にも考慮していただいているので感謝している。
- ・次に、選抜方法について御意見をいただきたい。
- ・高校側の立場としては、高校ごとにある程度自由度のある選抜方法であるとありがたい。専門部会の報告をお聞きして、前期・後期の2回の選抜を行っているわけだから、1本化に当たっては、両方の良いところ、両方の要素を入れたらどうかという意見が出たのは自然なことであると思う。ただ、千葉県の入試改善の経緯をよく知っている人にとっては前期と後期をミックスしたとよくわかる。しかし、経緯を知らない方や中学生にとっては、ややわかりにくい印象をもたれてしまうところがあることが心配である。1回になるのだから、1回だというメリットをいかしてシンプルな選抜方法にしたほうがよいと思う。よいとは思いますが、シンプルでわかりやすいというのは、一般論として、いろんなところに配慮がとどかないことが考えられる。これまでの本県の入試の改善の方向性は、学力だけでなく、生徒のいろんなよい面を多面的に評価できる選抜であった。高校の特色を生かした選抜を行っているので、1回になっても高校の特色が出せるような選抜であってほしいと思う。例えば、定員の何%は学力重視で選抜し、他の何割かは、別の側面、例えば適性検査を重視できるようにして選抜ができるような仕組みになるとよいと思う。
- ・評定平均値のことを今後考えてほしい。算式1では、評定合計平均値が9.5を超えると引かれてしまう。生徒が一生懸命頑張っているのに、引かれるのは疑問に思っている。また、保護者への説明が非常に厳しい。中学校側もまた、アンケートを取って確認したいと考えている。算式1はなくしてよいのではないかという意見が出ている。そろそろ検討してもいいのではないかと思う。
- ・検査が1回になるということの保護者への説明は必要であると思う。今まで2回チャレンジができたという間違った認識があれば丁寧な説明が必要であると思う。中学校の先生方から、保護者に説明する時間を十分に取っていただける流れになるとありがたい。学校の特色があり、多様な人間関係の中で成長するという事は、保護者は通わせてみて喜びを覚えるので、そういった点で千葉県の選抜はいいように行われていたように感じた。制度が変わるタイミングでは学校の特色を生かし、公正で公平な選抜の実施が行われるようにしていただければと思う。

(2) 平成32年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程(案)について

- 平成32年度の日程については、案Aと案B'の二つを提示した。
 - ・前回、休み明けに検査を実施するのは厳しいといったので、B'案を出していただいたのはありがたい。B'案は後期の発表が中学校の卒業式と重なるのではないかと思われる。また、第2次募集の日程も厳しくなる。現場の先生方の考えに沿った日程であればよいと思う。

- ・高校の立場からすれば、B'の後期の発表が3月9日になるのは厳しい。休み明けに前期選抜を行うのは中学校からしてみれば心配があるかと思うが、高校側は、遅くなるのはよろしくない。
- ・中学校側はできれば休み明けではなく、事前指導をきちんとできればと考えているが、高校側の慎重な判断ができる時間が欲しいという面も理解できるので、休日明けではあるが、保護者等とも十分連絡を取り合いながら注意を払っていきたいと思なので、A案の日程で進めていただければと思う。
- 様々な御意見をいただいたが、本協議会での意見を踏まえ、12月の教育委員会会議で決定し、年内に公表されるので承知いただきたい。

(3) その他

- ・前回の協議会で、平成31年度及び平成32年度選抜において、追検査を実施しない理由について質問をいただいたので、事務局より回答する。
- ・前期選抜で定員の100%を募集している一部の専門学科等を除き、多くの高校では、前期選抜、後期選抜等の複数回の受検機会を保障している。インフルエンザ及び体調不良等の際は、中学校、高校、保護者等と連絡を取り合い、志願者本人の意志を最大限配慮して、別室受検等の対応をしているところである。平成33年度選抜以降は、すべての高校で受検機会が1回となることを踏まえ、改善方針で示したとおり、受検機会を保障するために追検査を設けることとした。